

国立研究
開発法人

海上技術安全研究所 国際会議報告

会議：国際標準化機構（ISO）船舶及び海洋技術専門委員会（TC 8）船舶設計分科委員会（SC 8）上海会合

開催場所：上海 Pine City Hotel（青松城大酒店）

会議期間：2015年7月14日～16日

参加国：日本、韓国、中国及びインドネシア

海技研からの出席者：上入佐 光 流体設計系長（国内WG主査）

概要：

LNG 船用傾斜計（WG 10）、プロペラキャビテーション（WG 14）、船舶振動（WG 12）、船舶騒音（WG 13）の規格案が審議された。

主な貢献

上入佐は、プロペラキャビテーション騒音評価試験法改訂版の作業部会（WG 14）において、19項目に及ぶ日本意見がほぼ全面的に認められるのに貢献した。



参加者：韓国4名（SC 8議長／幹事、ISO 20233のプロジェクトリーダー他）、日本3名（船技協長谷川様、ナカシマプロペラ蓮池様、海技研上入佐）、インドネシア1名（オブザーバー）、中国5名（SC 8/WG 12&13議長他）の計13名

主な審議結果

当所職員が担当した事項における主な審議結果は以下の通りである。他の事項及び審議結果の詳細については、日本船舶技術研究協会の報告を参照願いたい。

本年2月のロンドン会合においては、キャビテーション水槽試験に関する以下の我が国意見が基本的に合意され、基本方針となった。

- ① Wire-mesh法の取り入れ
- ② ITTCガイドラインとの整合
- ③ 同等手段としての計算法への言及

これら基本方針に沿って今次会合では、我が国から提出した詳細規定に関する意見のうち、①Wire-mesh法の反映および②ITTCガイドラインとの整合に関する意見が、ほぼ全面的に採用され、これらの作業を概ね完了した。

今次会合における成果は、国内WGにおける討議結果に基づく我が国提案が、十分な技術的裏付けを有するものであったこと、及び、我が国からの出席者の説明が適切であったことによるものと思慮される。また、この規格の草案として韓国から提出された大型キャビテーション水槽を用いる方法を否定するだけでなく、積極的に改善にしようとする我が国のスタンスがSC 8議長に高く評価された。

③同等手段としての計算法については、今次会合に具体的な計算式に関する要件を定める提案を行った結果、韓国が持ち帰り検討することにはなったものの、採用される方向となり、これも大きな成果といえる。